

【建設省河川局 提供】

大倉ダブル アーチ ダム

重力式、中空重力式シングル アーチ、ダブル アーチなどの各種型式を比較検討した結果、地形への適合性、工期、経済性の点ですぐれているダブル アーチ式を採用した珍らしいダムである。洪水調節、かんがい、発電、上水道、工業用水道などを目的とする多目的ダムで、建設省が工事を行ない最近完成した。

位 置：宮城県名取川水系大倉川
 ダム高さ：82.0 m
 ダム長さ：320.0 m
 ダム体積：211 000 m³
 有効貯水量：25 000 000 m³
 流域面積：88.5 km²
 効 果
 1) 洪水調節：計画高水量 1 200 m³/sec
 調節量 800 m³/sec

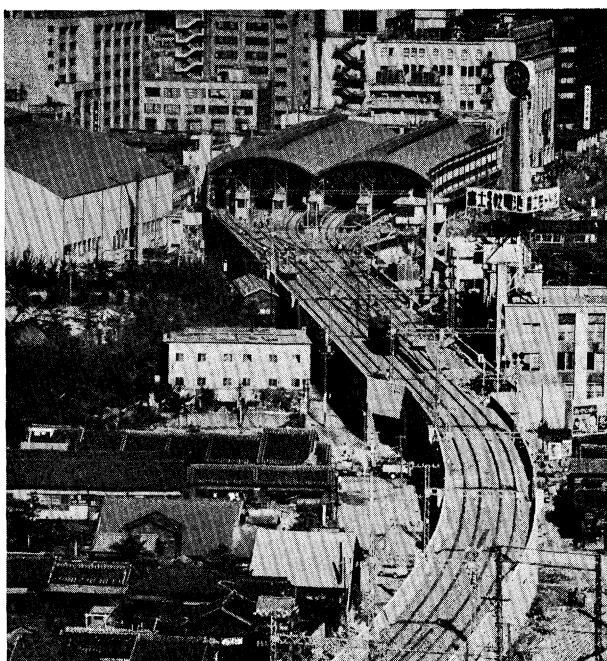
2) かんがい：補給面積 800 ha
 3) 発 電：最大出力 5 200 kW
 4) 上 水 道：対象 仙台市、塩釜市
 給水量 120 000 m³/day
 5) 工業用水道：対象 仙塩工業地帯
 給水量 100 000 m³/day
 工 期：昭和 31 年 4 月～36 年 10 月
 工 費：28 億 円

西日本鉄道大牟田線福岡駅

移設工事竣工

福岡市の戦災復興土地区画整理事業の一環である主要街路の拡幅とともに昭和 35 年 3 月以来工事中であった西鉄大牟田線福岡駅の移設がこのほど完成し、11 月 1 日から使用開始した。

(本文 ニュース 参照)



【運輸省民営鉄道部 提供】



若戸橋のメイン ケーブル完成

本誌第 46 卷 7 号ニュースに掲載された写真は主索架設のための足場が完了した状態であったが、その後本橋工事中最も神経を使わなければならない主索の張り渡しを初め、左右各 61 本のロープの張り渡しが 9 月 25 日をもって完了した。ロープの引き出しに先立って行なったプレテンションと測長およびマーキングが正確であるかどうかが、この段階で初めてわかるからである。張り渡したロープの張力の調整は深夜間にきわめて厳密に行なった。現状は主索にハンガー取付用のケーブルバンドを取付け、足場を主索にもり代えているところである。11 月下旬から補剛トラスの取りつけにかかる予定である。

(36 年 10 月 30 日撮影、若松側より
戸畠側を望む)

安治川橋取付高架工事（右岸）

本橋は第二阪神国道の中で最も重要な部分で阪神工業地帯と大阪港湾地帯を直結する効果はいちじるしい。安治川（旧淀川）としては最下流の橋梁で、船舶航行に対して O.P.+12.25 m の桁下を確保している。本橋は総巾員 33 m (8 車線) であるが、昭和 37 年中に 4 車線分だけ完成させるべく総工費 25 億円で 34 年着工した。完成後は有料橋となる予定である。



下部工	$\phi 5 \sim \phi 12$ m
円型ウェル	53 基
深さ	30~37 m
上部工	
本橋部	54—100—54 m
3 径間連続箱桁 (鋼床版)	
59—59 m	
2 径間連続箱桁	
高架部	
50 m	単純合成箱桁 12 連
40 m	" 16 連
総延長	
本橋部	326 m
高架部	720 m
擁壁部	240 m

【建設省第二阪神工事事務所提供】

昭和 36 年度吉田賞および吉田研究 奨励金候補の募集について

昭和 36 年 11 月

社団法人 土木学会

本学会は本年度から吉田賞および吉田研究奨励金の授与を実施することになりました。
今年度は下記の規定および内規によってこれを実施いたしますからふるって推薦されます
ようお願い致します。

なお、吉田賞候補を推薦するための推薦書および吉田研究奨励金候補に応募するための
研究計画書は学会本部または支部宛御請求下さい。

吉田賞委員会規定

(昭和 36 年度)

第 1 条 土木学会吉田賞委員会は吉田賞受賞者および吉田研究奨励金を授与されるものを
決定するためのものである。

第 2 条 吉田賞はコンクリートおよび鉄筋コンクリート並びにこれらに関連する優秀な研
究論文、工事、等にたいして授与される。

吉田研究奨励金はコンクリートおよび鉄筋コンクリート並びにこれらに関連す
る研究に従事するもので、特に独創性と将来性に富むと認められたものに授与さ
れる。

第 3 条 吉田賞の受賞者は土木学会の刊行物・コンクリートおよび鉄筋コンクリートに関
連する学協会の刊行物。その他これに類似の刊行物に、研究論文・設計・施工・
考案、等の報告またはそれらの要旨が登載されたものの中から選ばれる。

吉田研究奨励金を授与されるものは応募したものの中から選ばれる。

第 4 条 土木学会の会誌および論文集に登載されていない報告またはそれらの要旨が吉田
賞に選ばれた場合は、受賞者はその要旨を土木学会誌に発表しなければならない。

吉田研究奨励金を授与されたものは、その研究成果の報告書を昭和 38 年 5 月
15 日までに本委員会に提出しなければならない。研究成果の公表については、
本委員会の指示に従わなければならない。

第 5 条 吉田賞の受賞者には、土木学会通常総会（昭和 37 年度）において、賞状および
賞牌を授与し賞金を付与する。

吉田研究奨励金は、土木学会通常総会（昭和 37 年度）において、奨励状と共に
これを授与する。

第 6 条 本委員会の構成、運営、その他は別に内規で定める。

付則 1. この規定は昭和 36 年度に限り適用される。

吉田賞委員会の構成、運営並びに吉田賞候補、

吉田研究奨励金候補の募集に関する内規

(昭和 36 年度)

(吉田賞委員会の構成)

1. 吉田賞委員会は、委員長 1 名、副委員長 1 名および委員若干名によって構成される。
2. 運営事務を処理するため、幹事若干名をおく。

(委 員)

3. 委員は中立公正な立場で説明に当るもので、学識と経験に富む視野の広い人を選び、いやしくも職域や地域の利害を代表するものであってはならない。
- 昭和 36 年度においては、土木学会理事会が委員を選ぶものとする。

(委員長・副委員長・幹事)

4. 委員長および副委員長は最初の委員会において委員の互選で決定する。
5. 幹事は委員長の指名により、委員会の運営事務の処理に当り、投票権を持たない。

(吉田賞候補の募集、推薦、審査、受賞者の決定)

6. 本委員会は昭和 36 年度の吉田賞候補の募集について、昭和 36 年 11 月号の土木学会誌に発表し、吉田賞候補を公募する。
7. 吉田賞の候補者は推薦者によって推薦されたもので、日本に国籍を有するものに限る。
- 推薦者は土木学会会員（個人、団体）、その他一般とする。
8. 候補論文および候補業績は昭和 35 年 9 月 1 日から昭和 36 年 12 月 31 日までの間に発表されたものに限る。
9. 推薦の締切期日は昭和 37 年 1 月 20 日とする。
- 推薦者は土木学会所定の用紙による推薦書 1 部を本委員会に提出する。推薦書には推薦理由を明記しなければならない。
10. 本委員会および土木学会コンクリート委員会は、候補者を追加推薦することができる。
ただし、この推薦は昭和 37 年 1 月 31 日までとする。
11. 本委員会は推薦されたものについて、審査に付する資格と価値を判定し、審査に値すると認められたものについて、適当な審査員に審査を依頼する。
審査員は本委員会委員より選び、適宜委員外より追加することもできる。審査員はコンクリートおよび鉄筋コンクリートに関する専門的知識を有する学識経験者で候補の内容を深く審査し、公平な判定を下し得る人でなければならない。
12. 審査員は候補論文または候補業績につき、審査意見および可否の判定を文書により本委員会に提出する。
13. 昭和 37 年 4 月 30 日までに吉田賞委員会を開き、審査員の報告その他を参照して

討議した後、記名投票によって受賞者を決定する。

適格者がないときは、授賞しないでよい。

14. 本委員会委員長は授賞理由その他を土木学会通常総会（昭和 37 年度）に報告する。

（吉田研究奨励金候補の募集・応募・選考・被授与者の決定）

15. 本委員会は昭和 36 年度の吉田研究奨励金候補の募集について、昭和 36 年 11 月号の土木学会誌に発表し、吉田研究奨励金候補を公募する。

16. 吉田研究奨励金の応募者は日本に国籍を有する個人または研究グループとする。

応募者は土木学会所定の用紙による研究計画書 1 部を提出しなければならない。

17. 応募の締切期日は昭和 37 年 1 月 20 日とする。本委員会および土木学会コンクリート委員会は候補者を追加して応募をすすめることができる。ただし、追加応募の期日は昭和 37 年 1 月 31 日までとする。

18. 本委員会は委員の中から審査員を選び、吉田研究奨励金を授与されるものの審査をこれに依頼する。

審査員は応募者にたいする審査意見を文書により、本委員会に提出する。

19. 昭和 37 年 4 月 30 日までに吉田賞委員会を開き、審査員の報告その他を参照して討議した後、記名投票によって吉田研究奨励金を授与されるものを決定する。

適格者がないときは、授与しないでよい。

20. 本委員会委員長は吉田研究奨励金を授与されるものの選考結果その他を土木学会通常総会（昭和 37 年度）に報告する。